

学 園 だ よ り

# 太 白 山

(令和2年3月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

## 卒業生・退園生の皆さんへ

園長 池田 耕一

卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、御卒業おめでとうございます。また、学園を旅立つ皆さん、退園おめでとうございます。

進学や転校など夫々進む道は違いますが、皆さんは、新たなスタートラインに立つことになりました。

皆さんは、入園式の緊張の中で自分が話した入園の理由や自分の課題を覚えていきますか。学園生活の中で、自分が思い描いたとおり叶えることができた事もあるでしょうが、むしろ、もう一度あの時に戻ってやり直したい、と思う事の方が多いのではないのでしょうか。時計の針を戻すことはできませんが、皆さんは、これまでの経験から多くの事を学んだはずですよ。

今後、様々な壁にぶつかり、立ち止まってしまうこともあるでしょうが、そんな時は、苦手なことから逃げずに立ち向かった自分、目標に向けて頑張った自分を思い出してください。そして、失敗や困難を乗り越え、大きく成長した自分の力を信じてください。皆さんのこれからの人生に幸多からんことを、心からお祈り申し上げます。

## 「卒業生の皆さんへ」

分教室教頭 根本 光一

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

今年の卒業式は、新型コロナウイルスの影響と混乱の中、予定通りに実施できるか不安もあったと思います。しかし、保護者の皆さんや多くの御来賓に祝福していただきながら無事に実施することができ、私にとっても忘れられない卒業式になりました。

卒業後、学園からも退園する人、引き続き学園で生活する人、それぞれですが、皆さんには、分教室や学園生活で身に付けた「自分と向き合う力」を持ち続けて頑張ってもらいたいと思います。

分教室での皆さんの活動を振り返ってみると、いつも明るく一生懸命に取り組もうとする気持ちが伝わってきました。特に、苦手な勉強にも必死に頑張ろうとする姿がとても心に残っています。

小学部の児童は、これから中学生として、大人の入り口に近づいていきます。中学部の皆さんは、高校などより広い世界の中で自分を磨いていくこととなります。

これまででは、分教室や学園で厳しい

ルールはありましたが、多くの人たちに支えられながら、ある意味では「守られながら」、それぞれの課題と向き合い、克服してきました。しかし、一般社会では、「自由」が増える分、自分で自分をコントロールすることが求められます。そして、そのことは、思った以上に厳しいことでもあります。

しかし、さわらび学園でしっかりと課題に向き合えた皆さんなら大丈夫なはずですよ。迷った時には、人に相談したり、支えてもらったりしながら、自分の足でしっかりと立って、人生を切り開いてください。これからの皆さんの活躍に期待しています。

私が、さわらびに来て最初のころは、先生と話をしないで、イライラして物を壊していました。

私が、最初に通った学校では、休み時間になると、僕は、図書室に行ったり、みんなと話したりして、学校生活を楽しく過ごしていました。しかし、家に帰ると、家の人とほとんど話をせずに部屋に入っていました。あるときは、家の人の物を取っていたりしてしまいました。正直、なんでそんなことをしてしまったのか、自分でも分かりませんでした。

そして、気仙沼に住むことになりました。しかし、向こうの生活にもなじみずにはいきました。だから、人にイライラしたりして、すぐに物にあたってしまいました。そのこともあって、気仙沼にいられなくなっていました。そして、また、そのときは、自分の課題にまだ気がついていませんでした。そして、ついにさわらび学園に来ることになりました。

学園に来て最初のころは、暴れてばかりでした。しかし、暴れることをくり返していたら、自分が損していると

だんだん気づくようになりました。さらに、学園の先生が私によく話しかけてくれたことで、私も話しやすくなりました。それで、イライラしても人にぶつけずに流すようにして、自分のストレスを作らないようになりました。

私は、あまり先生と話をしなかったのですが、先生が、私に声をかけてくれたのはうれしかったです。そして、今、感謝したい人は学園の先生です。一緒に遊んでくれたり、話を聞いてくれたりして、うれしかったです。そして、私がイライラするときは、いろいろな相談に乗り、イライラしないようにいろいろと考えてくれました。そして、たまに先生につっこまれることが、楽しかったです。

私がこれまで成長できたのは、学園の先生のおかげです。ありがとうございます。

「誓いの言葉」

私は学園に来る前は、親にたくさん迷惑をかけていました。暴力をしたり、無免許で車を乗りまわしたり、親の制止も聞かず自分の気持ちを優先させた行動ばかりをしていました。当時は自分がやりたいと思ったことをやら

なければ落ち着きませんでした。そんな我がままを続けた結果、さわらび学園に来ることになりました。

学園に入ったときは、「なんで僕が入らなければならないのか」と思っていました。だから学園での作業や分教室の活動では、やりたくないという気持ちが強くなり、真剣に取り組みませんでした。さらに担当の先生に怒られてばかりで、初めは苦手でした。でも繰り返し話をされることで、一つひとつしつかりやらなければならぬという気持ちが芽生え始め、今ではすべてのことを丁寧に行うことが自然にできるようになりました。こんな自分に成長できたのは何度もあきらめずに話を聞いてくださった担当の佐々木先生と亀井先生のおかげです。本当にありがとうございます。

今、私には夢があります。それはトヨタレンタカーで働くことです。私は過去に自動車に関わることで、親にたくさん迷惑をかけてしまいました。当時は自分を制御する力が足りませんでした。ですが、今は違います。学園や分教室で学んだ、何事も丁寧にやること。一年七か月の学園生活で身に付けた、自分をコントロールする力を生かして、今後は正しい行動を意識して、大

好きな車に囲まれて働きたいです。仕事の内容は車に関わることだけではなく、知らない人からの電話に出るなど苦手なものもありますが、全力がんばります。

一生懸命仕事に打ちこみ、自分より周りの人の気持ちを考えられる立派な人間になります。これまでお世話になった方々、未来の私に期待してください。



## 「餅つき子ども会」

餅つき子ども会担当 羽賀 慧

十二月二十七日(金)に「餅つき子ども会」を実施しました。園長先生より鏡餅の由来を聞いた後、臼と杵を使って、子ども達と職員で協力して餅をつきます。重たい杵をうまく扱えない子、力強く餅をつける子など様々ですが、皆楽しく餅つきを行うことができました。餅つきが終わった後は、鏡餅作りです。熱くて、なかなか固まらない餅を上手に鏡餅にできます。鏡餅の飾りつけも子ども達で手作りしました。各寮二〜三個の鏡餅を作ることができました。

昼食は、学園のみんなで食事会です。様々な種類の餅を食堂の方が作ってください食べました。「先生！俺は餅〇〇個食べました！」と自慢げに話す子、お雑煮の餅が伸びで食べにくそうな子、「学園の餅を食べるともう今年もおわりだなあ」としみじみ語る先生。たくさん餅があつという間になくなってしまいます。

今年子ども会もこの「餅つき子ども会」をもって終了です。様々な行事を行い、どれも楽しく行うことができました。協力してくれた子ども達と先生方、ありがとうございました！

## 子ども会係から

子ども会担当 池田 千郷

突然ですがみなさん、「子ども会」といえばどのような組織を思い浮かべるでしょうか。私は幼い頃育った田舎町にある地域の町内会の一組織を思い出します。地域の名前をとって「〇〇子ども会」という名称でしたが、その町内に住んでいる子どもたちは自由に参加ができる組織でした。

しかし、さわらび学園の子ども会は少し違います。誰でも自由に参加できるわけでもなければ、各寮の厳正なる審査と職員の熱い思いを受けた(と、信じています)児童一名のみが子ども会役員として活動できるのです。学園で三名しかなることのできない子ども会役員は、もちろん、他の児童の模範となるような生活で(と、信じています)、寮の意見を集約し、行事の運営に奔走してくれます。

今年度も、各寮から選りすぐりの一名を選出していただきました。担当児童の皆さんは、年度一発目の行事であるお花見子ども会に始まり、七夕子ども会、クリスマス子ども会や、年忘れ子ども会などの行事に一生懸命に取り組んでくれました。当日だけのお仕事だけではなく、事前の打ち合わせも

必要なため、貴重な自由時間をいただいで話し合いを行ったり、他の児童とは別の活動をお願いしたりしました。

先日、今年度の役員をしてくれた児童の皆さんと、行事の反省会と振り返りを含めたささやかな打ち上げを行いました。行事の裏方や挨拶、前振りのない突然の指示に困惑したことも多々あったようですが、他の児童とは別の動きをすることによる特別感を抱いたとの言葉も聞かれ、大変な仕事を任されているにも関わらず、前向きな言葉を聞くことができ、担当職員として嬉しい気持ちで一杯になりました。「もつと行事があつてもいい！」という児童のパワーには圧倒されますが、そのエネルギーに負けることのないよう、よりよい円滑な行事運営のために、邁進していこうと思います。

日々生活する中にも何かと行事の多い学園ではありますが、今年度企画されていた子ども会行事は無事に終了することができました。役員担当児童の皆さんに感謝すると共に、次年度への期待を込めまして、今年度の活動の振り返りいたします。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

## 子ども会役員をやってみて

中三 K

私は、三月頃に子ども会役員になりました。最初は、お花見子ども会でレクリエーションの担当をしました。その当時は、学園の行事のことも知らないことばかりで同じ役員の子に聞いたりしていました。でも、四月の中旬に行つたお花見子ども会では、新しい先生方を歓迎する気持ちでした。七月の七夕子ども会や十二月のクリスマス子ども会では、野球や学園祭の練習をしながらすぐ子ども会の打ち合わせに行くなど、ハードスケジュールな時たくさんありました。がしかし、私はそこにやりがいというものを感じました。

私は、今年一年間を通して、様々な行事を経験しました。毎回わからないことだらけで大変でしたが、私はとても楽しく、そしてこれだけやりがいのある仕事というのは初めての経験でした。



## ボランティア係から

ボランティア係担当 氏家 美紀

早いもので一年が過ぎようとしています。今年度もいろいろな方々が、さわらび学園の子ども達のために応援していただいています。

まず最初にBBS交流会は年2回ありました。毎回楽しいゲームやスポーツを企画してもらい、皆で楽しい運動会のような感じでした。子ども達からも楽しかったという感想が多かったです。お忙しい中を、たくさん準備してくださり、大変感謝しています。

また、福祉大の定期演奏会への招待は希望者のみの参加となりましたが、お出かけの機会となるため喜んで参加していました。会場の雰囲気や楽器紹介など、とてもいい雰囲気の中で、ゆったりとして気分を演奏してもらえると、これまでのことを思い出して懐かしく聴いてきたという感想もありました。

太白保護司会の方々からは、女子寮へ浴衣の着付けやウエディングドレスの試着をさせていただきました。素敵な衣装に触れたり、身に付けたりする等、とてもよい経験となりました。また、お茶会などをしながら、話をす

る機会もあって大変楽しい時間になりました。

日本中国料理協会宮城県支部の方々の訪問もあり、お店で働いているコックさんが来て、一緒に昼食用のサンドイッチを作ったり、厨房ではコックさんたちがおいしい中国料理を作ってごちそうしていただきました。テーブルを囲みながら、コックさんと一緒にご飯を食べたり、質問コーナーでは、すばらしいアドバイスもいただくことができました。午後はソフトバレーを行い、コックさん達も加わっていただきながら、チーム対戦しました。食事だけではなく、汗を流して体を使った芯からの交流もありました。

石巻地区厚生保護司会の方々と一緒に、食堂に皆が集まり、おいしいおはぎ作りを教えてください、おやつに食べました。おはぎ作りが初めての子どもに有意義に過ごすことが出来ました。おやつを食べながら、質問コーナーで御仕事の内容を聞かせていただくこともありました。お腹いっぱいおはぎを食べることが出来ました。

その他にも寄付として、おやつや果物やクリスマスプレゼントやバレンタインデーのチョコレートや手作りの品物等の寄付もたくさんいただきました。

ました。その後は、皆の感謝の気持ちの感想文を郵送して伝えるようにしました。一人一人の感じ方は様々です。素直に生き活きた文章を表すことで、皆の気持ちが届いていることと思います。

## 栄養士から

栄養士 向山 加奈子

何かとせわしない世の中ではありますが、日々春の近づきを感じることも多くなってきましたね。

今回はさわらび学園での食事の取り組みを少し紹介したいと思います。さわらび学園の食事ではお誕生日のリクエストメニューというものを実施しています。リクエストメニューとは何かというと、お誕生日の児童に対して事前に「お誕生日に食べたいメニューは何ですか？」とアンケートをとって、そのメニューをお誕生日のリクエストメニューとして提供するというものです。できるだけ児童のリクエストを叶えるために厨房内でも話し合いながら希望に近いメニューの実施に努めています。児童によって食べたメニューも様々で、リクエストメニューからはその児童のお誕生日の思い出が読み取れるような気がして、リ

クエストメニューを受け取る時はどんな内容なのかとても楽しみな主幹でもあります。また、リクエストメニューは当日までサプライズになっています。食堂に児童が集まりリクエストメニューがわかった瞬間、「わー！すごい、おいしそう！」などと歓声が聞こえてくることもあり、お誕生日以外の児童も楽しみな食事の一つになつているのだと感じます。

日々の食事において栄養バランスを考えることはもちろん大切ですが、児童の楽しみとなるような食事や学園での楽しい記憶の一つになれば良いなという気持ちで毎日の食事作りに努めています。今後も様々な食材やメニューを取り入れ、児童の食経験となるような食事にしていきたいです。

## ☆編集後記☆

今年度もさわらび学園を御支援いただきありがとうございます。来年度も学園ホームページや広報誌を通じて子どもたちの学園生活を紹介します。いききたいと思いません。

